

# 中国留学を終えて

坂井 未来

私は留学に行く事を、以前からずっと迷っていました。留学に興味がなかったわけでは  
ありません。しかし、私は最初、中国という国に対してあまり良いイメージを持っていま  
せんでした。その為、決心がつかないでいたのです。何度か、去年留学へ行った先輩たち  
が、中国語の授業中にその良さを伝えに来てくれたことがありました。話に聞いていると、  
いかに中国留学が有意義なものかが伝わってきました。空気の汚染問題等、心配な事は多々  
あったのですが、それでも留学へ行く事を決めたのは、そのような周りの意見があったか  
らです。

いざ、中国へ着いた時。当たり前のことですが、皆中国語を話しているのが聞こえまし  
た。私は海外へ行くのがこの時が初めてでした。日本語を話さない土地で、これから生活  
して行くのかと思うととても不安に思ったことを覚えています。その時の私の中国語のレ  
ベルは決して高いと言えるものではなく、所々を断片的に聞き取れる程度でした。それも、  
簡単な挨拶など本当に初歩的なものばかりです。そんな中、北京師範大学の生徒である、  
陳さんが流暢な日本語で、寮への手続きなどを手伝ってくれました。最初、出会った当初  
は日本語でばかり話していましたが、後々、少し中国語でも会話できるようになりました。

そして、クラス分けテストを終え、授業が始まりました。クラスには、様々な国の生徒  
たちがいました。彼らの中国語はとても流暢に聞こえました。入学当初から、中国語で皆  
会話していたからです。とても驚きました。その頃のわたしたちの中国語のレベルとかけ  
離れていたからです。授業もまた、最初は少し苦痛に感じました。先生の言っていること  
はすべて早口に聞こえました。聞き取れない時、先生が英語を使って説明してくれること  
もありましたが、それもまた聞き取れず悪戦苦闘しました。私はとても英語が苦手だった  
からです。ランダムに当たる質問にも、最初は答えることが出来ませんでした。当然、授  
業で、先生や生徒が言った冗談を理解することもできませんでした。しかし、段々授業の  
数をこなしていくと問いに答えられるようになりました。そうやって少しずつ授業につい  
ていくことが出来るようになるまで、だいぶ時間がかかりました。毎回毎回出される宿題  
の量にも苦戦していました。小テストも頻繁にあった為、毎日机に向かう事を求められま  
した。しかし、そのような課題があったからこそ、中国語を覚えられるようになったのだ  
と思います。留学を終えて、読めるようになった中国語が格段に増えたことから、いかに  
あれらの授業が為になったかを実感します。

また、北京での生活を始めるにあたって、生活の必需品を集めることにも、最初、戸惑  
いました。なんと書かれているのか分からず、どれを買えばよいのか分からなかった為で  
す。辞書で調べても出てこないことも多々ありました。また、生活するうえでも日本と違  
う点がいくつかありました。トイレットペーパーを水に流せないことや、水道水が飲めな

いことです。毎日のことであることも相まって、これにはすぐに慣れました。ただ、浴槽がないという点だけは最後まで慣れませんでした。留学の最初のころは夏だったので、シャワーだけでも特に不便は感じませんでした。後半に入り、寒くなってくると浴槽が恋しくてたまらなくなりました。しかし、寮の部屋はエアコンが完備されていたので、いつも暖かく心地良かったです。寮では、掃除をしてくれる人が来てシーツを交換してくれたり、ゴミを持って行ってくれたりしました。なので、とても快適に過ごすことが出来ました。食事は普段は寮近くの学食を利用していました。そこでは、安価でおいしい料理が食べられました。タッパを持っていけば、寮に持ち帰って食べることも出来ました。沢山ある料理の中から、バイキングのような形式で食べ物を頼みます。そして、たまには、学校の外にある料理屋さんにもよく行っていました。そこでの牛肉炒飯がとてもおいしくて、かつ、店員さんがとても優しかったからです。中国での食事は慣れればとてもおいしいです。そのせいで、この留学の期間だけで体重がだいぶ増えてしまった程です。スーパーで売っているカップラーメンは、中には辛くてたまらないものもありましたが、最初残してしまったそれも、後半は慣れ、好き好んで食べるようにまでなっていました。舌がひりひりする感覚が懐かしいです。

校内には、外に卓球台が置いてあったのも新鮮に感じました。よく皆で打ちに行ったのは楽しかったです。



また、飲み水はとても安価な値段で校内のスーパーに売っており、ほぼ毎日のように買い出しに出かけていました。中国の物価は日本と比べるととても安いことは話には聞いていたのですが、しかし実際現地でそれを実感してみるとやはり再度驚きました。留学前半、それが物珍しくて、見た事のないジュースやお菓子を毎日買っていました。外国から輸入されているお菓子なども、パッケージの文字などが中国風に書き直されていて、それを見るのもまた楽しかったです。少し大きい店へ、服を買いに行った事もありました。そこまで行くのに、地下鉄やバスを乗り継いでいくのですが、その価格は一律でとても安く済みました。しかし、予想していた通り、交通に関しては怖いと思えるところも沢山ありまし

た。歩行者が平気で道路を横断するからです。中でも一番驚いたのは、クラクションです。中国人はクラクションを頻繁に鳴らすので、びっくりするやら怖いやらいつまで経っても慣れませんでした。クラクション禁止の標識が立っている場所でもそれは変わりませんでした。その為、最初は、横断歩道を渡ることすら恐怖でした。そうやって、やっと目的の店へとたどり着きました。日用品などと違って、衣服などは値切りが出来る所があります。私はそれが苦手で、あまりうまく値切ることができませんでした。少し高い、と伝えても店主に「いい品だから」とあしらわれてしまうことがほとんどでした。後々になってぼったくられたことに気が付くことも多々ありました。それでも買い物は楽しくて、王府井や前門へよく買い物へ行きました。そこで売っているものの中には、日本では見られないようなものも多く、見ていてとても面白かったです。揚げたヒトデや串刺しにされた小さなサソリなどの変わったものもありました。手は出しませんでした、見ていてとても面白かったです。

私の中国語が不慣れなせいか、よく店主に「何人？」と聞かれました。日本人だと返事をして、嫌な顔をする人は全くいませんでした。以前、中国留学へ行った先輩から聞いていた、「タクシーに乗っていて、日本人だと言ったら降ろされた」という話から、私がタクシーに乗ることが怖いと感じていました。しかし、留学中何度もタクシーに乗りましたが、私が日本人であるからと言って降ろすようなことをする運転手はいませんでした。中国に抱いていたイメージが誤ったものであったと、そのあたりでだんだん気付いていきました。普段生活していく中で、反日を感じたことはほとんどありませんでした。唯一感じたのは、テレビ番組です。いつも、いくつかのチャンネルでは、鬼畜日本兵を表すような場面の多いドラマが放送されていました。しかし、陳さんが「あれを真に受けて見ているひとなんてほとんどいない」と言ってくれました。日本でも、中国でも、互いの国をよく思っていない人というのは本当に一握りだけなのだとこのことを知りました。実際に関わった中国人の方々は皆優しかったです。

休日には、世界遺産に登録もされている、万里の長城へ行ったりもしました。天安門や天壇へも。美しい建築物から、中国の歴史を感じられました。北京ではほとんど雨が降らないこともあって、いつも出掛けるときは天気だったのが嬉しかったです。

更に、授業のコマが空いたときなどは、中国人の友人と一緒に勉強をしに図書館へ行きました。彼女は日本語を勉強している大学の生徒のひとりで、互いの国の言語を勉強しているという点もあり、日本語と中国語交じりに会話していました。彼女の日本語はとても流暢でした。他にも、日中交流会などで知り合った、日本語を勉強している中国人の学生たちの日本語はともうまい人が圧倒的に多かったです。それでも、勉強している時間は一年や二年の人も沢山いました。中国人は勤勉なのだなあと感じました。また、交流会で会った子と後日、食堂で一緒にご飯を食べた時がありました。私が頼んだ、中国料理の料理名を教えてくれたりしました。授業があるから、と別れる際、果物に餡がかかったものを買ってくれました。「北京の名物。とてもおいしい」と言ってくれました。彼女の優しさ

に感動しました。校内に売っているそれは、イチゴであったりオレンジであったり様々な種類の果物のバージョンがありました。彼女がくれた時から、その飴が大好きになり、自分でもよく買うようになりました。

クリスマスには、クラスの皆でシークレットサンタというレクリエーションをしました。くじを引いて、自分がプレゼントをする人は誰だかわかるけれど、しかし自分が誰からプレゼントが送られるか内緒、というゲームです。大体の予算を決めて、クリスマスの日、皆でプレゼント交換をしました。お菓子であったり、ぬいぐるみであったり、皆の用意したプレゼントは様々でした。とても楽しかったのを覚えています。



また、留学メンバーのそれぞれの誕生日の際には誕生会を開きました。誕生日ケーキを用意したり、プレゼントをあげたりしました。

中国留学を終えて、日本では学ぶことのできないことを多く学ぶことが出来たように思います。留学へ行く事を決めかねていましたが、しかし、行く事を決めてよかったと今では思えます。中国のことだけでなく、他国の様々な文化を知る事も出来ました。留学へ行って、中国が、中国人が好きになりました。現地に行かなければ分からないことが沢山ある事を知りました。初めて親元を離れた四か月でした。この留学という貴重な経験をこれから活かしていきたいと思います。

